

富山高専 第4期中期計画 / 令和4年度年度計画 / 年度計画実施状況

第4期中期計画 (富山高等専門学校)	令和4年度 年度計画 (富山高等専門学校)	年度計画進捗状況	課題
<p>1. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置</p> <p>1. 1 教育に関する事項</p>	<p>1. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置</p> <p>1. 1 教育に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度に設置した教学IR室を中心に教学マネジメント(教育目標を達成するために行う管理運営)の推進に必要な情報を収集する。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度より、IRを用いた教学マネジメント推進事業拠点校に指定されている。令和4年度全高専に当該事業を展開し、全国の推進校と協力のうえ、教学マネジメントの構築に取り組んでいる。 教学IR室では、教学アセスメントプランを策定し、令和3年度の学校活動における各種データを基に点検評価を行い、校長へのマネジメントレビューを実施した。この結果を基に校長から改善事項等が示され、担当部署において検討が行われている。また、学科レベル及び科目レベルのアセスメントプランも策定し、各レベルで学習教育の成果を点検評価し、教育改善に取り組んでいる。 	
<p>(1) 入学者の確保</p> <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校Webサイトの充実を図り、中学生にとって有益となる情報を積極的に掲載。 様々な機会を設け、中学生、在校生の保護者、地域住民に情報発信を図る。 中学校校長、進路指導教員等を本校に招き、教育研究の実状を見ていただき、本校の良さをPRする。 県内の中学校訪問を立案・実行し、本校の特徴や魅力を発信する。 	<p>(1) 入学者の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 在校生の保護者に対して、授業や学校行事を公開し、普段の教育活動を知っていただく機会を設ける。また、保護者からの要望を広く伺うことにより、教育改善に繋げる。以上の対策・努力を通じて、保護者の本校への信頼と評価を高める。 中学校校長、進路指導教員等を本校に招き、本校における教育・研究の実状を見ていただき、その良さをPRする。同時に、中学校側等の本校への要望を聞く機会を設ける。また、県内中学校を2回以上訪問する中学校訪問の計画を立案・実行する。志願者分析の結果、高専教育の特色である実験・実習の重視をアピールする増募対策方針に基づき、志願者向けの広報物を作成する。 各部署との連携を強化し、公式Webサイトの充実を図り、中学生にとって有益となる情報を積極的に掲載する。 ニュースリリースなどによりマスコミを通じて本校の活動を積極的にPRする。 技術振興会会員企業を中心とした県内の産業界に対する本校のPRを関係する教職員が入試広報センターと連携して行う。 本校を紹介するカレッジガイド(志願者用)や学校要覧の更新を行うと同時に、中学校などへ効果的に配布して活用性に努める。 入試広報センターにおいて、イベントや関係機関を通じた広報や志願者確保に関する体験などの企画を立案する。これに基づき、志願者確保のための活動計画を作成し、より効果的な志願者確保策の実施に努める。 志願者を対象とする動画コンテンツに学校活動を盛り込み、昨年度制作した広報用DVDやホームページの最新情報を積極的に活用して、中学校や地域へアピールする。 これまでの広報の手段を検証し、新たな広報策を企画・実施する。 県内外において遠隔地保護者会を実施し、学年学科を問わず地域内の保護者同士でコミュニティを形成できるように援助することで、各地域での保護者による情報発信を図る。 本部が実施する合同説明会に参加し、入学者の確保に取り組む。 入学動機に関するアンケート結果を基に効果的な広報活動を検討し、実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 広報誌「高専通信」を年3回発行(6/5, 9/20, 3/7)した。学生・保護者に配付し、本校の取り組み、学校報告及び各種大会における学生の活躍等を伝えた。校長をはじめ、主事、専攻科長等によるメッセージを随時掲載し、教育や運営方針の周知と共有した。 28件のニュースリリースをマスコミに送付し、本校の活動を積極的にPRを行った。 トピックスを定期的に更新するなど、本校関連情報を、公式HPに掲載した。 令和4年度学校要覧(8/30)を発刊した。 4月に保護者による授業参観を射水キャンパスでは実施したが、本郷キャンパスでは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため時期を9月延期し、実施した。 保護者を対象に担任による懇談会(個別懇談会)を実施し、教育活動の報告をするとともに学校への要望を聞き、教育改善を検討した。(9/12~9/16) 保護者を対象に全体懇談会、学科別進路説明会を実施した。(本郷:9/13~9/15、157名参加、射水:9/14~16、全体懇談会166名参加、学科別進路説明会200名参加) 高専機構本部主催の広報イベントに参加し、学校紹介プレゼンや個別相談を実施した。(KOSEN FES.2022:東京6/19 個別相談、大阪7/17 学校紹介プレゼン、個別相談、KOSEN FAIR 2022:オンラインイベント、10/30個別相談、11/6個別相談) 在学生の保護者へ毎月「学校通信」をメール連絡網で配信し、教務・学生・寮務関係の最新情報を発信した。 中学校の進路指導担当教諭・3年担任教諭を対象とする学校見学会を6月に実施した。 志願者向け広報物として、カレッジガイドを作成し、県内国公立全中学校や入学実績のある県外中学校に配布した。 学生募集要項完成後に、中学校教諭を対象とする説明会を各キャンパスにて実施した。なお、遠方のため来校が困難な参加希望者に対しては、Teamsを使用したオンラインでの実施とした。また、当日来校した参加者には校内見学会を実施した。 夏・秋の2回、県内国公立全中学校に担当教員が訪問し、入試情報などの宣伝を実施した。県外では隣接3県(石川全県・岐阜飛騨地区・新潟上越地区)で、入学実績のある中学校などに訪問し、入試情報などの宣伝を実施した。 校長による県内中学校訪問を実施した。(7月~9月) 遠隔地保護者懇談会については、その在り方を本校と後援会で協議した結果、前年度までの入試広報の目的を見直すことになったことから今年度の開催を見送り、次年度に向けて保護者にとって有意義な開催方法等を検討することにした。 技術振興会の紹介及び本校と技術振興会会員企業との連携事業を紹介するパンフレットを作成し、技術振興会会員企業を中心とした県内の産業界にPRを実施した。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 在校生の保護者、地域住民、中学生を高専に招き、在校生、卒業生の活躍状況をPRする。 学校説明会、学校見学会、公開講座、出前授業等の事業を積極的に展開するとともに、これら事業で実施したアンケート等を分析して効果的なPRのあり方や成果について検討する。 オープンキャンパス等、中学生や保護者が集まるイベント等において、アンケート調査や聞き取り等の方法により、学校独自で行った事業について意見収集を行い、効果的な実施内容や実施方法を検討し、次回以降に反映させる。 小中学校の理科教育及び技術科(系)教育支援の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 広報や志願者確保のための企画として、オープンキャンパスを夏と秋に開催した。(夏季OC:8/4~8/6 参加者 本郷キャンパス260名、射水キャンパス317名、秋季OC:10/29、30 参加者 本郷キャンパス151名、射水キャンパス150名) 5/21、5/22に開催の北斗祭(射水キャンパス学園祭)にて進路相談コーナーを設置し、随時来場者の相談に応じた。 11/27と12/31に中学生を対象に、進学個別相談会を両キャンパスで実施した。 遠方のため来校が困難な中学生・保護者を対象にTV電話・電話相談会を計2回開催した。(6/27、11/26) 	

第4期中期計画 (富山高専専門学校)	令和4年度 年度計画 (富山高専専門学校)	年度計画進捗状況	課題
② 女子高専生の協力のもと作成した富山高専紹介冊子を、県内中学校訪問の際に配布し、女子学生の確保に向けた取組を推進する。留学生の確保に向けて、ホームページや広報物の多言語化を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・高等専門学校を卒業し産業界で活躍する女性の情報を収集し、中学生向けのパンフレット等に情報を掲載する。 ・女子中学生向けのパンフレットを活用して、女子学生の比率向上を目指す。また、これまで取り組んできたキャリア教育の充実を図るとともに女性教員の比率向上及びキャリア形成支援についての活動を引き続き進める。 ・関連する教職員は技術振興会会員企業や県内各種工業会と連携し、産業界で活躍する本校女性卒業・修了生に関する情報の収集を行い、入試広報センターの広報資料への情報提供を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生向けに発行しているカレッジガイドに本校女子学生の活躍状況や本人コメントを掲載した。 ・オープンキャンパスの際、女子学生による学科紹介を行ったほか、オープンキャンパス参加生徒・保護者が直接学生と相談できる機会を設けた。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・入試広報センターは海外へ効果的な情報発信を行うため、海外戦略推進委員会と連携しホームページの多言語化や広報物見直しの検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・富山高専チャンネルhttps://www.nc-toyama.ac.jp/movies/ にアップされている動画のうち、R3.3月末に①高専紹介ムービー、②寮生活にタイ語とインドネシア語の字幕設定し、令和3年度には③キャンパスライフにタイ語の字幕設定をすることで多言語対応を進め、公開している。 ・本校ホームページの多言語化を進めるため既存の英語版・中国語版に加え、タイ語版をホームページのリニューアルに合わせて検討することにしてはいたが、ホームページのリニューアルを当分の間見送ることになったことから、引き続き検討することとしている。 	
③ ・入学した学生に対し本校入試に対する意識調査や各種受検者データの収集・分析・情報共有を行い、対応を検討する。 ・混合授業・混合クラスなど、少子高齢化に伴う学生の多様化に対応した教育体制を策定し構築する。 ・資質の高い専攻科志願者を確保するために、専攻科入試の改善を行う。 ・機構本部と連携し、他高専と共同した遠隔地学力試験会場(最寄地受験)を継続的に運用する。	<ul style="list-style-type: none"> ・機構本部と連携し、他高専と共同した遠隔地学力試験会場(最寄地受験)を継続的に運用する。 ・Web出願システムを本科推薦及び学力による選抜の出願に導入し、受験生の利便性向上を図る。 ・入試について過去の実績を踏まえ、さらに改善に努める。 ・入試広報グッズの頒布を行う。また、技術振興会会員企業と海外子女受け入れに関する情報交換を行うなど、本校のステークホルダーとの連携による入試広報を進める。 ・数学や物理の高専統一試験の結果や入学試験成績と入学後の成績の推移等の情報を基に、入学者の資質の分析を行う。 ・本校入試制度におけるweb出願等の効率的な運用を検討し、受験者数の確保に努める。 ・専攻科の認知度向上を図るため、Webサイトは常に新しい情報となるよう留意するとともに、企業等を対象とした地域社会への広報活動を継続する。 ・資質の高い専攻科志願者を確保するために、低学年から専攻科の教育内容を説明する機会を設ける。 ・本校に入学した学生に対し本校入試に対する意識調査や各種受検者データの収集・分析・情報共有を行い、より適切な入試選抜となるように対応を検討する。 ・高等専門学校を卒業し産業界で活躍する女性の情報を収集する。 ・技術振興会会員企業を中心とした県内の産業界との連携事業を推進し、地域産業界からの意見収集をはかる。 ・シニアフェローとの懇談会などを通して意見収集をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度に引き続き、令和5年度入試(令和4年度実施)の学力検査による選抜において、木更津高専と合同で東京会場(東京海洋大学)を設け、10名が受験した。また、最寄地受験では、本校志願者が他高専会場で20名、他高専志願者が本校会場で3名が受験した。 ・過去の実績を踏まえ、受験生の選択肢をさらに広げ志願者増につなげるため、令和2年度入試より、学力検査による選抜において全学科で第3志望まで志願できるようにした。 ・令和3年度入試からは機械システム工学科、電気制御システム工学科及び電子情報工学科をAI・ロボット学類とし、推薦選抜において第3志望まで志望できることとした。 ・令和4年度入試から帰国生徒特別選抜では学力検査による選抜同様、全学科から第3志望まで志望できることとした。また、これに伴い、国際ビジネス学科の検査内容の見直しを行った。 ・機構本部が令和5年度入試より本格導入したWeb出願システムについて、志願者及び中学校サイドの視点でシステム構築することを目的に校内検討チームを設置したことで、当該システムを円滑に運用することができた。また、同システムによる出願方法の理解を得るため中学校訪問、中学校教員対象の学生募集説明会、秋季オープンキャンパスの機会をとらえて中学生・保護者及び中学校への説明を行った。 ・専攻科の授業「地域産業学」および「技術と環境」において、企業の技術者による講義を行っている。また、学科の授業においても技術振興会会員企業の方による講義を継続的に行っている。 ・CBTを用いて実施される学習到達度試験について、その結果を分析し、教務委員会等関係委員会で共通理解を得、来年度の教育内容の改善に反映させることとしている。 ・令和元年度より本郷キャンパス3学科で実施している混合学級を見直し、次年度以降の本郷・射水両キャンパスでの一部授業科目において混合授業を実施することにした。 ・受験者数を確保するために、各中学校にカレッジガイド、カレッジリーフレットを配布し、中学生及び進路指導教諭等に高専の魅力や特徴をわかりやすく具体的に紹介した。また、全国の中学校にポスターを配布するとともに、帰国生徒向けHPに本校の帰国生徒入試に関する情報を掲載した。 ・専攻科の認知度向上を図るため、Webサイトの更新を随時行っている。 ・令和3年度専攻科入学者学力選抜より、英語に関する検査についてTOEICスコア換算を新基準で行っており、エコデザイン工学専攻においては、令和7年度(令和6年度実施)入試から同選専攻が定めるTOEICスコアを出願要件とする旨を事前告知した。さらに、出願時に提出させるTOEICスコアの適用を見直し、令和6年度(令和5年度実施)入試から教員等の監督の下で実施されたTOEIC IP(オンライン)スコアでも可能とすることにした。 ・年度末に今年度の専攻科特別研究課題名をWEBサイトに掲載している。 	

第4期中期計画 (富山高等専門学校)	令和4年度 年度計画 (富山高等専門学校)	年度計画進捗状況	課題
<p>(2)教育課程の編成等 ① ・教育課程の点検を行い、社会の変化に対応した学科、専攻科のあり方について、新しい教育体制の検討・整備状況を踏まえ、必要な見直しを行う。 ・教育カリキュラムについて、企業と本校が協働して検討し、授業として実施する。 ・専攻科生の海外インターンシッププログラムの環境を継続的に整備するとともに、学生の募集・派遣を行う。 ・既に入試を行っている東京海洋大学との連携教育プログラムに加え、豊橋技術科学大学、長岡技術科学大学との連携教育プログラムを推進する。</p>	<p>(2)教育課程の編成等 ・教育課程の点検を行い、社会の変化に対応した学科、専攻科のあり方を検討し、新しい教育体制の検討・整備状況を踏まえ、必要な見直しを行う。 ・本校学生のための教育カリキュラムについて、企業と本校とが協働して検討し、授業として実施する。</p> <p>・専攻科用の海外インターンシッププログラム(就労体験およびアカデミックインターンシップ)の環境を継続的に整備するとともに、学生の募集・派遣を行う。 ・技術振興会会員企業等へのインターンシップを促進するために、参加学生の企業説明会などの支援を行う。 ・海外インターンシップの事前学習のための相談窓口などの環境を整備する。 ・技術振興会を含む産業界との連携講座を継続して実施、企業との共同研究を探るなど、さらなる展開を検討する。 ・技術振興会が主催するインターンシップ事業、技術振興会との連携講座、会員企業への教員の短期派遣(インターンシップ)について、継続実施するとともに、新たに実現可能なものから試行する。 ・東京海洋大学、豊橋技術科学大学、長岡技術科学大学との連携教育プログラムを推進する。</p>	<p>・教員の定員管理を踏まえ、将来計画委員会において今後の学科・コース構成や学科間連携のあり方について検討している。令和3年度から機械システム工学科、電気制御システム工学科、電子情報工学科をAI・ロボット学類と位置付けていたが、AI・数理データサイエンス教育プログラム認定制度(応用基礎レベル)の全学科展開を機に今年度をもって当該学類を解消することにした。 ・令和2年度COMPASS5.0(AI・数理データサイエンス)拠点校として採択された。同じく拠点校の旭川高専及びKEA(石川高専、苫小牧高専)、機構本部と協力し、分野を問わず全ての高専生が数理・データサイエンス・AIの基礎力を身につけ、更に富山高専の持つ特色を深化させるカリキュラムの構築を行った。 ・令和3年度に向けたカリキュラムの再編を行い、全学科においてAI、MOT、数理・データサイエンスに関する授業科目を開講している。 ・専攻科の授業「地域産業学」および「技術と環境」において、企業の技術者による講義を行っている。また、学科の授業においても技術振興会会員企業の方による講義を継続的に行っている。 ・富山県機電工業会との協力の下、「地域産業学」を後期開講し、企業担当者による講義と工場見学を実施している。</p> <p>・技術振興会を含む産業界との連携講座として、セミナープランを継続して実施、さらなる展開を検討した。 セミナープラン実施状況(全13回実施) 7月13日(2回実施)、8月4日(2回実施)、8月26日(2回実施)、8月26日(2回実施) 9月1日(2回実施)、9月7日(1回実施)、9月13日(1回実施)、9月16日(1回実施) ・技術振興会が主催するインターンシップ事業、会員企業への教員の短期派遣(インターンシップ)については、コロナの影響で未実施 ・海外インターンシップについて、4月に希望者向け説明会を実施予定としていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。 ・国内の企業インターンシップに学生を派遣している。派遣先マッチング、派遣中の教員視察、成果発表等の支援を行った。 ・専攻科の海外インターンシッププログラムについては新型コロナウイルスの影響により、昨年度に引き続き今年度も募集・派遣が中止となった。 ・海外インターンシップが新型コロナウイルスの影響により昨年度に引き続き、今年度も中止となったことで、事前学習については実施していない。 ・令和元年度に専攻科海事システム工学専攻と東京海洋大学資源環境学部との連携教育プログラムの協定を締結し、海事システム工学専攻入学予定者1名が令和4年度4月に入学した。また、今年度同プログラム編入学試験を令和5年度海事システム工学専攻入学予定者のうち2名が受験し、共に合格した。 ・豊橋技術科学大学及び長岡技術科学大学との連携教育プログラム構築支援校として採択され、両大学との連携教育プログラム実施に向け作業を進めている。</p>	<p>新型コロナウイルスの影響により、海外インターンシップがすべて中止され、募集・派遣や事前学習を実施することができなかった。</p>
<p>② ・海外の交流協定を結んでいる教育機関等を中心に、学生の海外留学や海外インターンシップを展開する。 ・国際化及びダイバーシティ化に向けて、帰国子女の受け入れや英語の授業強化に取り組む。 ・TOEIC等の検定試験の受検を積極的に推奨する。</p>	<p>・本校と海外の教育機関等と交流協定を結んでいる機関を中心に、学生の海外留学や海外インターンシップを展開する。 ・本校の国際化及びダイバーシティ化に向けて、帰国生徒の受け入れ及び授業英語化の強化に取り組む。</p>	<p>・帰国生徒特別選抜で入学した学生の状況を担任、教務委員会等で情報共有し連携できる体制をとった。 ・帰国生徒向けHPに本校の帰国生徒入試に関する情報を掲載した。 ・学生の海外留学や海外インターンシップ展開のために、交流協定の更新を進めている。</p>	
	<p>・海外へ効果的な情報発信を行うため、海外戦略推進委員会と入試広報センターが連携し、ホームページの多言語化や広報物見直しを検討する。</p>	<p>・富山高専チャンネルhttps://www.nc-toyama.ac.jp/movies/ にアップされている動画のうち、R3.3月末に①高専紹介ムービー、②寮生活にタイ語とインドネシア語の字幕設定し、令和3年度には③キャンパスライフにタイ語の字幕設定をすることで多言語対応を進め、公開している。 ・本校ホームページの多言語化を進めるため既存の英語版・中国語版に加え、タイ語版をホームページのリニューアルに合わせて検討することにしてはいたが、ホームページのリニューアルを当分の間見送ることになったことから、引き続き検討することになっている。</p>	

第4期中期計画 (富山高等専門学校)	令和4年度 年度計画 (富山高等専門学校)	年度計画進捗状況	課題
<p>③-1 公立高等専門学校と協力して、学生の意欲向上や国立高等専門学校のイメージの向上に資する「全国高等専門学校体育大会」や、「全国高等専門学校ロボットコンテスト」等の全国的な競技会やコンテストの活動を支援する。</p>	<p>以下の全国的なコンテストへの参加を推奨、支援し、学生の創造性や自立と協調性を育む機会とする。</p> <p>A 「全国高等専門学校体育大会」 B 「全国高等専門学校ロボットコンテスト」 C 「全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト」 D 「全国高等専門学校プログラミングコンテスト」 E 「全国高等学校ディープラーニングコンテスト」 F 「廃炉創造ロボコン」</p> <p>また、その他の全国的なコンテストへも積極的に参加を推奨する。</p>	<p>A.全国高等専門学校体育大会については、陸上部、女子バスケットボール部、テニス部、卓球部、水泳部、剣道部、柔道部などが出場し、女子陸上競技が3大会連続での優勝を果たし、特別表彰が授与された。また、個人の部では、陸上競技で男子100m、200m、3000mSCで上位入賞、女子100mH、4×100mRで1位の好成績を収めた。</p> <p>B.10/23開催の東海北陸地区大会においては、各キャンパスから2チームずつ出場し、本郷キャンパスAチームがアイデア賞、本郷キャンパスBチームが特別賞を受賞し、本郷キャンパスAチームが全国大会へ出場し、特別賞(ホンダ技研興業株式会社)及び高専制度創設60周年記念特別賞(チャレンジ賞)を受賞した。クラブ顧問の指導のもと、技術室職員からの安全教育や課外活動指導員の配置など、東海北陸地区大会、全国大会に出場に向け、学生からの相談に対応できる指導体制を整備した。</p> <p>C:今後、東海北陸地区大会において両キャンパスから1チームずつ出場し、射水キャンパスからの参加者が1位に、本郷からの参加者が3位に入賞した。また、全国大会ではチーム部門で全国高専英語教育学会賞を受賞した。</p> <p>D.全国高専プログラミングコンテスト全国大会に、本郷キャンパスから1チーム、射水キャンパスから1チーム、計2チームが出場した。</p> <p>その他各種大会において、全国高専将棋大会団体に出場、高校総体においてヨット、空手道で出場、高文祭において囲碁、吟詠剣詩舞で出場した。廃炉創造ロボコン、高専GCONIについてもエントリーしているところである。全日本中国語スピーチコンテスト富山県大会においては、大学生部門第1位となり、全国大会出場に向けて、中国語担当教員による指導を行っている。</p> <p>E:全国高等学校ディープラーニングコンテストに、本郷キャンパスから1チームがエントリーした。</p> <p>F:廃炉創造ロボコンに、本郷キャンパスから1チームがエントリーした。</p> <p>その他各種大会に以下のとおり出場した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国高専将棋大会に個人・団体で出場 ・国体に、空手道、馬術、セーリングで出場し、馬術で射水キャンパスの学生が8位入賞し、富山県高体連賞を受賞した。 ・全国高校総体にヨット、空手道で出場 ・高文祭に囲碁、吟詠剣詩舞で出場 ・高専GCONIに本郷キャンパスから1チーム、射水キャンパスから1チーム、計2チームがエントリーした。 ・全日本中国語スピーチコンテスト富山県大会に、射水キャンパスの学生が出場し、高校生部門第1位、大学生部門第1位、第2位となった。 <p>また、その他のコンテスト等の情報の案内を、Teamsを活用し、周知を行った。高専機構共同教育プロジェクト等、高専機構が推進する教育プロジェクトに参加する学生を支援するため、交通費及び宿泊費の半額を補助することとし、学内に周知して学生の積極的な参加を促した。</p>	
<p>③ ・各種コンテストへの参加を推奨・支援し、学生の創造性や自立と協調性を育む機会の拡充を図る。 ・合宿研修、特別教育活動、同好会活動などの体験活動(ボランティア、社会奉仕、自然体験)への積極的な参加を推奨する。また、これらに関する学生会等の活動を支援し、学生の自主、自律および社会性の涵養を図る。</p>	<p>・学生に対し、学外研修、特別教育活動、同好会活動などの学内外の体験活動(ボランティア、社会奉仕、自然体験)への積極的な参加を推奨する。これらに関する学生会等の活動を支援し、学生の自主、自律および社会性の涵養を図る。また、ボランティア活動等の善行・功績があったと認められる場合は、学生表彰制度において表彰を行う。</p>	<p>・社会奉仕活動として、6/15に射水キャンパス3年生126名が近隣の海浜清掃を実施した。11/9には2年生が海浜清掃を実施した。6/21本郷キャンパス寮生会139名が富山高専近隣の清掃活動を実施した。</p>	
<p>・留学プログラム等の情報を収集し、海外で活動する学生を支援する。</p>	<p>・留学プログラム等の情報を収集し、オンライン参加の海外セミナー、シンポジウムの参加を推奨するとともに、海外で活動する学生を引き続き支援する。</p>	<p>・本校が加入しているJAFSA(国際教育交流協議会)やその他案内のあった各種セミナー(オンライン)へ参加し、留学プログラム等の情報収集をおこなっている。</p> <p>以下日程・参加セミナー・参加人数</p> <p>5月2日「カナダ留学オンラインセミナー」1名 6月22日・23日 日加オンライン交流会 1名 7月6日 ニュージーランド留学オンラインセミナー 1名 8月29日 留学生交流実務担当教員養成プログラム 1名 9月9日 メタバースを活用した新しい形態のオンライン海外研修プログラムについて 1名 9月28日 西オーストラリア州パース留学セミナー 1名</p>	

第4期中期計画 (富山高等専門学校)	令和4年度 年度計画 (富山高等専門学校)	年度計画進捗状況	課題
<p>(3)多様かつ優れた教員の確保 以下に掲げる方策をそれぞれ又は組み合わせ実施することにより、多様かつ優れた教員を確保するとともに、教員の教育研究力の向上を図る。</p> <p>① ・教員公募において、応募資格の一つとして、博士の学位を有する者を掲げることを原則とする。 ・多様な背景を持つ教員組織とするため、他機関や海外での勤務経験者の採用を推進する。 ・博士課程への社会人入学制度、並びに内地研修を利用して、学位など高度な資格取得を勧める。</p>	<p>(3)多様かつ優れた教員の確保 ・教員採用にあたっては公募を原則に博士の学位を有する者、並びに他の研究機関、民間企業で実績をあげた者など、優れた教育・研究力を有する人材を教員として採用することとし、近隣大学出身にこだわらない教員の確保を進める。 ・博士課程への社会人入学制度、並びに内地研修を利用して、学位など高度な資格取得を引き続き勧める。 ・新任教員のメンターに、研究指導に優れた教員を配置する。 ・優れた人格と教育・研究業績を有する者を特命フェローとして採用し、本校の教育活動等への活用を進める。</p>	<p>・原則的に学位を重視するが、今年度の教員選考(昇任含む)においては、民間企業での実績、船員における航海歴、技能免状など様々な角度からなる評価により、優れた教育・研究力を有する人材の確保した。 ・3名の教員が博士課程への社会人入学制度を利用して博士号取得に向けて取り組んだ。 ・新任教員のメンターに6名の教員を配置して、教育・研究指導を行った。 ・特命フェロー並びに研究員を各1名採用し、教育・研究支援の業務に従事した。</p>	
<p>② 企業や大学に在職する人材など多様な教員の配置を可能とするため、新たにクロスアポイントメント制度の導入を検討する。</p>	<p>・企業との優れた人材の交流について検討するため、技術振興会会員企業をはじめとする企業との交流(クロスアポイントメントを含む)を進める。</p>	<p>・企業等とのクロスアポイントメント制度の活用について、教員からの相談に対応し、検討を行った。</p>	
<p>③ ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム(育児等のライフイベントにある教員が他の国立高等専門学校で勤務できる制度)等の取組を実施する。また、女性教員の増加を進めるため、働きやすい環境整備を行う。</p>	<p>・ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取組を実施する。 ・スマイル・アップ推進委員会では、女性教員に高専を理解してもらうためホームページにより外部にアピールし、また女性教員の増加を進めるための環境整備を行う。 ・女子大学生に高専を体験してもらう事業を通して、高専の教育研究環境の広報を行う。 ・専門学科での教員公募にて女性教員登用について記載し、確保に努める。</p>	<p>・教員1名(女性1名)が介護短時間労働制度を利用して勤務した。 ・職員3名(女性3名)が育児短時間労働制度を利用して勤務した。 ・職員1名(女性1名)が育児休業を取得した。 ・妊娠、育児及び介護をはじめ、新型コロナウイルス感染拡大防止に関する教職員の就業上の措置として、在宅勤務、時差出勤及び職務専念義務免除等、柔軟な働き方を選択できるよう配慮した。 ・教員募集要項に女性からの応募を歓迎する旨を明記するなど、女性からの応募を増加させる取り組みを行った。</p>	
<p>④ 教員公募の際には、外国人教員の採用を積極的に検討する。</p>	<p>・教員公募の際には、外国人教員の採用を積極的に検討する。</p>	<p>教員募集要項に外国籍を有する方の応募を歓迎する旨を明記するなど、外国人からの応募を増加させる取り組みを行った。</p>	
<p>⑤ 長岡技術科学大学及び豊橋技術科学大学との連携を図りつつ、国立高等専門学校・両技術科学大学間の教員人事交流を実施する。</p>	<p>・多様な背景を持つ教員組織とするため、教授及び准教授については、他機関や海外での勤務経験者比率を90%になるよう推進する。</p>	<p>・教授及び准教授は84名在籍しており、内59名は民間企業含む他機関や海外勤務経験を有している。また、兼業により他機関で非常勤講師として勤務している教員もあり、在外研究員制度や人事交流を通じて、さらなる比率向上に努めた。 ・人事委員会において高専間異動、両技科大への教員派遣について検討を行った。</p>	
<p>⑥ ・FD研修会を複数回実施し、各分野における専門機関等と連携し、教員の資質・能力向上を図る。 ・継続してピアレビュー(教員相互の授業参観の実施)を実施する。 ・クラス経営・生活指導における教員研修や管理職研修など、学外で開催されている研修事業に積極的に参加する。 ・技術振興会会員企業への教員の短期派遣(インターンシップ)実施に関する調査を行う。</p>	<p>・クラス経営・生活指導における教員研修や、管理職研修など、外部で開催されている企画事業に積極的に参加するよう推奨するとともに参加を支援する。 ・技術振興会会員企業への教員の短期派遣(インターンシップ)実施に関する調査を行う。 ・FD研修会を年複数回実施し、各分野における専門機関等と連携し、教員の資質・能力向上を図る。</p>	<p>・顕著な功績が認められた教員1名、職員3名を表彰した。 ・学生アンケートや業績に基づき、国立高等専門学校教員顕彰へ教員2名(一般部門1名・若手部門1名)、国立高等専門学校職員表彰へ1グループ(3名)を推薦した。 ・次の研修に参加させ、教員の能力向上に努めている。 新任教員研修に5名、学生支援担当教員研修、障害学生支援実務者育成研修にそれぞれ1名、全国国立高専学生支援教職員研修、高等専門学校中堅教員研修会にそれぞれ3名、管理職研修に2名、その他学外研修に10名の教員が参加した。 ・第1回(9/9)、第2回及び第3回(12/7に同日開催)のFD研修会を開催した。</p>	
<p>⑦ 教育活動、生活指導、研究活動、管理運営などにおいて、顕著な功績が認められる教職員や教職員グループを表彰する。</p>	<p>・教育活動、生活指導、研究活動、管理運営などにおいて、顕著な功績が認められる教職員や教職員グループを表彰する。</p>	<p>・顕著な功績が認められた教員1名、職員3名を表彰した。 ・学生アンケートや業績に基づき、国立高等専門学校教員顕彰へ教員2名(一般部門1名・若手部門1名)、国立高等専門学校職員表彰へ1グループ(3名)を推薦した。</p>	

第4期中期計画 (富山高専専門学校)	令和4年度 年度計画 (富山高専専門学校)	年度計画進捗状況	課題
<p>(4)教育の質の向上及び改善 ①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデルコアカリキュラムに基づく教育を実施し、カリキュラムポリシーの確認・検討を行う。 ・国内外の教育機関における優れた教育実践例の収集と整理に努め、教育方法の改善を促進する。 ・学生卒業時の満足度調査を実施し、カリキュラムをはじめ、学校運営を検討する際の参考とする。 ・校務・授業を全学的に分担する領域を拡大し、ワンカレッジ化を推進する。 ・先端的大学との教育・研究協力を促進する。 	<p>(4) 教育の質の向上及び改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新カリキュラムに照らし、各ポリシーの確認・改善のための検討を行う。 ・卒業時の満足度調査を実施し、カリキュラム改善の検討をはじめ、学校運営の改善を検討する際の参考とする。 ・工学系4学科のうち機械系、電気系、情報系を纏めたAI・ロボット学類を設置し、教育の質向上を推進する。 ・校務・授業を全学的に分担する領域を拡大し、ワンカレッジ化を推進する。 ・事務組織を全学的に見直し、ワンカレッジ化を推進する。 ・カリキュラムに応じた資格取得を勧める。 ・国内外の教育機関における優れた教育実践例の収集と整理に努め、教育方法の改善を促進する。 ・企業人材をシニアフェローに登録し、本校の教育活動等への活用をすすめる。 ・BYODの導入によるICTを活用した教育改善を推進する。 ・数理・データサイエンス・AI教育プログラム実施により、全ての学生に数理・データサイエンス・AIの基礎的要素を修得させる。さらに、意欲のある学生に対しては、自らの専門分野に応用できる能力を修得するよう促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度カリキュラムの再編に伴い、各学科におけるディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの見直しを行った。 ・本校カリキュラムを踏まえて単位化可能としている資格について学生に周知し、資格取得を促している。 ・令和3年度より、IRを用いた教学マネジメント推進事業拠点校に指定されている。令和4年度全高専に当該事業を展開し、全国の推進校と協力のうえ、教学マネジメントの構築に取り組んでいる。 ・教学IR室では、教学アセスメントプランを策定し、令和3年度の学校活動における各種データを基に点検評価を行い、校長へのマネジメントレビューを実施した。この結果を基に校長から改善事項等が示され、担当部署において検討が行われている。また、学科レベル及び科目レベルのアセスメントプランも策定し、各レベルで学習教育の成果を点検評価し、教育改善に取り組んでいる。 ・教育方法の高度化を目指し、令和2年度より新入生向けにBYODを導入している。 ・新型コロナウイルス感染者の発生に伴い一部のクラスにおいてOffice365Teamsを用いたオンラインによる遠隔授業を実施した。 ・入学説明会時に遠隔授業を実施する場合に備え、各家庭におけるネットワーク環境整備を依頼した。 ・AL研修会及び高専フォーラムへ参加している。 ・平成29年度入学生から全学生に対して実施している富山高専専門学校の教育プログラムが、内閣府・文部科学省・経済産業省の3府省が連携し公募を行っていた「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」(第1回)に富山県内で初めて認定されていたが、令和4年8月には本校の教育プログラムが先導的で独自の工夫・特色を有するものとして、特に「リテラシーレベル(プラス)」として選定された。さらに令和2年度から電気制御システム工学科および電子情報工学科で実施している教育プログラムが、リテラシーレベルよりも上位の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(応用基礎レベル)」として認定されており、令和4年度、全学科において「応用基礎レベル」が取得できるよう整備を行っている。 	
<p>② 機関別認証評価の自己点検評価を行い、自己点検・自己評価チェックシート等の見直し、また第三者評価による運営諮問会議を開催し、評価・改善を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己点検評価委員会と機関別認証評価受審専門部会で連携し、自己点検・評価の実施項目の見直しを行い、機関別認証評価受審に向けた準備を行うとともに、改善した自己点検・評価を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己点検評価委員会と機関別認証評価受審専門部会で連携し、自己点検・評価の実施項目の見直しを行った。機関別認証評価を10/24に受審した。 ・第3社評価による運営諮問会議を11/15に開催した。 	
<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術振興会会員企業による講座等を通して、学生に資格取得の重要性を喚起する機会を設ける。 ・セキュリティを含む優れた情報教育実践例を収集し、FD研修会などで情報共有を図る。 ・eラーニングやICTを活用した教育方法について情報収集を行い、講義等への導入を促進する。また、そのための教育環境の整備を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術振興会会員企業による講座等を通して、資格取得の重要性を学生に喚起する機会を設ける。 ・大学コンソーシアム富山の実施する地域フィールドワークなどの事業への参加を推奨し、学生に問題解決型学習を体験する機会を支援する。 ・本校が実施しているジュニアドクター育成塾を通じて、地域の理工系人材の早期発掘及び人材育成を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ジュニアドクター育成塾を例年通り実施※受講生は40名 6月11日 37名受講、7月2日 38名受講、7月9日 39名受講、7月16日 34名受講 8月22日 38名受講、8月23日 38名受講、8月24日 36名受講、9月17日 34名受講、9月23日 24名受講、10月9日 32名受講、11月5日 14名受講、12月3日 33名受講、1月28日 39名受講 ・大学コンソーシアム富山地域フィールドワーク研究助成に採択され、学生が参加し、問題解決型学習を実施した。また、学生地域リーダー塾にも学生が参加し、地域の困りごとについて他大学の学生とおもに課題解決学習を行った。研究助成成果発表会が、2月27日に実施され、学生が研究成果を発表した。 ・学生地域リーダー塾実施日：9月17日、18日 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・技術振興会会員企業が実施している事業と連携した学生の体験活動への参画が可能となる環境整備を目的に、本校学生が参画可能な事業に関する調査を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、学生と技術振興会会員企業との連携事業を実施した。(Ti-team、企業研究会等) 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・セキュリティを含む優れた情報教育実践例を収集し、FD研修会などで情報共有を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・12月7日に情報セキュリティ研修会を実施し、144名が参加した。 	
<p>④ 長岡技術科学大学と連携したアドバンスコース事業を活用し、広い視野を持った人材育成に取り組む。また、本科や専攻科と技術科学大学との連携した教育カリキュラムについて協議を進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・eラーニングやICTを活用した教育方法について情報収集を行い、講義等への導入を促進する。また、そのための教育環境の整備を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・両技科大との間で連携教育プログラムを構築し、今後入学生を受け入れる仕組みを整備した。その中でeラーニングやICT活用について情報収集・教育を行った。 ・高専機構として採択され、本校がとりまとめを行っており、文部科学省・国際原子カインシアティブ事業においては、長岡技科大と強く連携し、原子力・放射線分野のeラーニング教材を開発した。コンテンツは本校電気制御システム工学科の科目「システム工学」として長岡技科大のサーバー上に置き、長岡技科大が中心として運営しているeラーニング高等教育連携事業(eHELP)の体制の中で、令和元年度から希望高専に配信している。 	

第4期中期計画 (富山高等専門学校)	令和4年度 年度計画 (富山高等専門学校)	年度計画進捗状況	課題
<p>(5)学生支援・生活支援等 ① 中学校卒業直後の学生を受入れ、かつ、相当数の学生が寄宿舎生活を送っている特性を踏まえ、カウンセラーやソーシャルワーカー等の外部専門職を活用することにより、学生支援体制の充実を図る。 ・メンタルヘルスに関する各種アンケートを実施し、学生支援の情報を提供する。 ・特別な支援が必要な学生に対して支援チームを設置し、体制の構築を図る。 ・メンタルヘルスを含めた学生支援のための講習会を学生、教職員に実施する。 ・学生相談体制の拡充のため、カウンセラーと連携するとともに、富山県内の関係団体と連携し、ソーシャルワーカーの派遣体制を検討する。</p>	<p>(5)学生支援・生活支援等 ・特別な支援が必要な学生に対して、支援チームを設置し、体制構築を図るとともに、カウンセラー・スクールソーシャルワーカーと連携し、学生、保護者、担任などの支援を強化する。 ・学生、並びに教職員向け(メンタルヘルスを含めた学生支援のための)の講習会(研修会)を実施する。 ・校内のカウンセリング体制の充実化を推進するとともに、問題を抱える学生や保護者が気軽にカウンセリングを利用できる環境を提供する。 ・学生相談体制の一層の拡充を図るため、スクール・カウンセラーと連携するとともに、富山県内の関係団体と連携し、適宜、スクール・ソーシャルワーカーの派遣を受けることができる体制を構築する。 ・「東海・北陸地区学生支援連絡協議会」に参加し、意見交換、情報交換を行い、本校の相談室業務の参考とする。また、その他の高専のメンタルヘルスを含めた学生支援体制についての情報を集める。</p>	<p>・カウンセリングの体制を整えるとともに学生へのカウンセリングの案内を積極的に実施し、学生のカウンセリング利用を促進した。 ・学生相談室でのカウンセリングにオンラインカウンセリングを取り入れた。 ・射水キャンパスでは、前期4月に2年～専攻科、6月に1年生対象に適応感尺度調査、後期10月に低学年1～3学年にHyper-QU、高学年4～5学年・専攻科1～2年に学校適応感尺度調査を実施し、問題を抱えていそうな学生の早期発見及び事後対応として緊急度の高い学生についてはカウンセリングを実施した。必要に応じて担任・学科長・学年主任・相談室と連携した個別対応を行っている。本郷キャンパスでは、前期6月全学年対象に適応感尺度調査、後期11月に低学年1～3学年にHyper-QU、高学年4～5学年・専攻科1～2年に学校適応感尺度調査を実施し、特別な支援が必要な学生に対し支援を行った。 ・4/4新入生ガイダンスで新入生に対して相談室と学生支援体制について説明し、9/14-16の保護者懇談会の全体会で保護者へ学生相談室の説明を実施した。 ・スクールソーシャルワーカーとの連携体制を構築し、必要に応じて派遣依頼が可能となった。 ・オンライン開催となった「東海・北陸地区学生支援連絡協議会」では、射水キャンパスが主管校を務めた。学生支援部門では学生相談室長、副室長が、看護師部門では看護師が、会議の運営及び情報交換を行った。 ・9月に本校いじめ防止対策委員会による、いじめ防止研修会を開催した。 ・9月に外部講師を招聘し、性的マイノリティに関するFD研修会を開催した。</p>	
<p>② 高等教育の教育費負担軽減に係る奨学金制度など、学生の修学支援制度について、機構本部からの情報が共有できる体制を充実させる。また、税制上の優遇措置を適切に情報提供すること等により、産業界などの支援による奨学金制度の充実を図る。</p>	<p>・独立行政法人日本学生支援機構等と緊密に連携し、高等教育の教育費負担軽減に伴う新たな修学支援制度について、法人本部からの情報が共有できる体制を充実させる。また、税制上の優遇措置を適切に情報提供すること等により、産業界などの支援による奨学金制度の充実を図る。</p>	<p>高等教育の修学支援新制度について、HP及び担任からのお知らせ、Teams、学校通信等により積極的な周知を行った。また、その他の奨学金についても、Teams及び担任からの周知により、情報提供した。 Jassoの新型コロナウイルス感染症対策助成金事業に申請し、本校の寄附金と助成金により、Jasso奨学金受給者を対象に食に対する経済的支援を行った。</p>	
<p>③ 学生の適性や希望に応じた多様な進路選択のため、以下の取組を実施する。 ・進学・就職指導室の機能充実を図る。 ・低学年のホームルームを利用してキャリア教育を実施する。 ・卒業生や専門家によるキャリアガイダンスを実施する。 ・キャリア教育の観点から、外部指導員の雇用を検討し、4、5年担任とベテラン教員で構成する進路指導支援チームをつくり、学生指導を行っていく。 ・技術振興会が主催するインターンシップ事業、技術振興会との連携講座、会員企業への教員の短期派遣(インターンシップ)について調査検討を行い、実現可能なものから実施する。 ・ソリューションセンターと連携して企業研究会を開催する。</p>	<p>・令和3年度に引き続き、卒業生や専門家によるキャリアガイダンスを実施する。 ・キャリア教育の観点から学生の職業意識の醸成ときめ細かい進路指導を行うため、学科内に4、5年担任とベテラン教員で構成する進路指導支援チームをつくり、定期的なミーティングを持ちながら情報共有し、学生指導を行っていく。 ・WEB求人票システムの使用状況を把握し活用方法を検討する。 ・技術振興会が主催するインターンシップ事業、技術振興会との連携講座、会員企業への教員の短期派遣(インターンシップ)について調査検討を行い、実現可能なものから試行する。 ・担当教職員はソリューションセンターと連携して企業研究会を開催する。 ・船員となったOBのキャリアガイダンスを実施する。 ・学生の就業意識向上のため小中学生の前で船について語りかける会を実施する。 ・引き続き、低学年のホームルームを利用してキャリア教育を実施する。</p>	<p>・専門家によるキャリアガイダンスは、オンライン開催のため参加人数の把握はできていないものの、計画通りに実施した。また、進学就職指導室会議を通じて情報共有を頻繁に行い、進路指導を実施している。11/2(水)に開催した企業研究会を通じて学生の企業研究に対するキャリア教育を対面で実施し、学生の就業意識向上に対する教育を行った。また、5月に主に射水キャンパスの本科4・5年生、専攻科生を対象に公務員説明会を行うなど各学科に応じて企画を行った。 ・船員関係の就職対策として5年生向けに各船社、陸上企業からの企業説明会を4月～6月に実施した。15:30-教員向け、16:10-17:30学生向けを標準時間設定として18社の説明会を実施した。この説明会は基本的に全学年を対象に希望者が参加可能としている。のべ180名の学生が参加した。 ・8/27 日本船主協会主催の5商船高専合同WEBガイダンスにおいて本校OBが講演を行った。 ・本校で実施している8月および10月のオープンキャンパスにおいて、学生が船について話をした。</p>	

第4期中期計画 (富山高等専門学校)	令和4年度 年度計画 (富山高等専門学校)	年度計画進捗状況	課題
<p>1. 2 社会連携に関する事項</p> <p>① 教員の研究業績等を掲載するresearchmapのデータ更新を定期的に行い、データの積極的な情報発信を行う。また、企業向けWebシーズ集を充実させ、企業や地域社会に広報する。</p>	<p>1. 2 社会連携に関する事項</p> <p>・教員の研究業績等を掲載するresearchmapのデータ更新を定期的に行うよう周知、そのデータの活用法を検討し、積極的な情報発信を行う。</p>	<p>・教員の研究業績等を掲載するresearchmapのデータ更新を行うよう5月に教員にメールで周知した。</p>	
<p>②</p> <p>・地方公共団体との連携強化について検討を行い、可能なものから推進する。</p> <p>・知財マネジメント人材育成に関して、日本弁理士会等と連携して講義の実施を学生、地域産業界に対して行う。</p>	<p>・産学官との連携強化について、調査検討を行い、可能なものから推進する。</p>	<p>・共同研究は、おおむね例年並みに実施した。 共同研究数:56件(うち技術振興会会員企業37件) ・技術振興会理事会総会を対面式で実施した。また、企業訪問、コラボフォーラムを実施した。</p>	
<p>③ 本校における強み・特色・地域の特性を踏まえた取組や学生活動等の様々な情報を広く社会に発信することを促進するため、以下の取組を実施する。</p> <p>・ニュースリリースなどによりマスコミを通じて本校の活動を積極的にPRする。</p> <p>・地域連携の取組や担当するプロジェクト等の情報をマスコミに提供し、取材機会を増やすほか、事後にはホームページ等を通じて積極的に情報発信を行う。</p> <p>・各部署との連携を強化し、公式Webサイトの充実を図り、中学生にとって有益となる情報を積極的に掲載する。</p> <p>・技術振興会会員企業等との連携強化を図るため、セミナーなどの事業を実施する。</p> <p>・企業からの技術相談等の受入を推進し、共同研究までの連続した支援を行う。</p> <p>・企業のニーズに応える企業技術者教育を図るため、本校教員のシーズを生かしたセミナープランを提案、実施する。</p> <p>・地域で開催される産業界向けの展示会等において、本校PRと本校の教員シーズを入試広報センターと連携して実施する。</p> <p>・富山県機電工業会との包括協定のもと、地域産業界との一層の連携(教員・学生及び産業人の相互交流)を図り、ものづくり人材育成を進める。</p> <p>・本校を紹介するカレッジガイド(志願者用)や学校要覧の更新を行うと同時に、効果的に配布して利活用を努める。</p> <p>・本校の報道内容及び報道状況を機構本部に随時報告する。</p>	<p>・ニュースリリースなどによりマスコミを通じて、本校の産学連携・地域連携活動を積極的にPRする。</p>	<p>・ジュニアドクター育成塾のプレスリリースを例年通り実施した(8回のプレスリリースを実施)。</p>	
	<p>・地域連携の取組や担当するプロジェクト等の情報提供を通じ取材機会を増やすほか、事後にはホームページ等を通じて積極的に情報発信を行う。</p>	<p>・セミナープランの実施等、地域連携・産学連携事業について随時HPIに掲載した。</p>	

第4期中期計画 (富山高等専門学校)	令和4年度 年度計画 (富山高等専門学校)	年度計画進捗状況	課題
<p>1. 3 国際交流等に関する事項</p> <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機構本部が推進する「日本型高等専門学校教育制度(KOSEN)」の導入支援の取り組みについて、積極的に協力し貢献する。 ・モンゴル、タイ、ベトナム以外の諸外国についても、「KOSEN」の導入支援について情報収集を行い、協力について検討を行う。 	<p>1. 3 国際交流等に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人本部の方向性をふまえ、本校としてのそれらへの貢献について、引き続き、情報収集ならびそれらの検討を行う。 ・モンゴルにおける「KOSEN」の導入支援について情報収集を行い、本校における、それらへの貢献について検討を行う。 ・タイにおける「KOSEN」の導入支援について情報収集を行い、本校における、それらへの貢献について検討を行う。 ・ベトナムにおける「KOSEN」の導入支援について情報収集を行い、本校における、それらへの貢献について検討を行う。 ・モンゴル、タイ、ベトナム以外の諸外国についても、「KOSEN」の導入支援について情報収集を行い、本校における、それらへの貢献について検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高専機構本部事務局主催の国際戦略推進本部会議等において、情報収集を行った。 ・高専機構本部事務局主催の国際戦略推進本部会議等において、情報収集を行った。 ・高専機構本部事務局主催の国際戦略推進本部会議等において、情報収集を行った。 ・高専機構本部事務局主催の国際戦略推進本部会議等において、情報収集を行った。 ・高専機構本部事務局主催の国際戦略推進本部会議等において、情報収集を行った。 	
<p>② 機構本部が募集する各種国際交流事業に対して、応募・参加を検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高専機構が募集する各種国際交流事業に対して、応募・参加を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高専機構本部事務局主催の国際戦略推進本部会議等において、情報収集を行った。 	
<p>③ 本校の国際化のため、以下の取組を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外で活躍できる技術者としての能力の伸長に取り組むため、単位認定制度や単位互換協定に基づく海外留学や海外インターンシップなど学生が海外で活動する機会を後押しする体制を充実するとともに、学生の英語力、国際コミュニケーション力の向上や海外に積極的に飛び出すマインドを育成する取組を実施する。 ・学生を海外に派遣する際の危機管理体制の構築を進める。 ・海外の提携校からの短期留学生受入サポートを実施する。 ・海外研修旅行を検討し、学生の海外への興味を喚起する。 ・留学プログラム等の情報を収集し、海外で活動する学生を支援する。 ・技術振興会会員企業に教員の短期派遣(インターンシップ)実施に関する調査を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生を海外に派遣する際の危機管理体制の構築を進める。 ・海外の提携校からの短期留学生受入サポートを確実に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、学生を海外に派遣する際の危機管理体制構築のため、OSSMAと年間契約を行った。 ・MITL(タイ)から短期留学生6名の受入れを行い、センターにおいて学内で指導教員を割り当て、留学生がスムーズに研究活動を実施できるようサポートを行った。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・学生を海外に派遣する際の危機管理体制の構築を進める。 ・海外の提携校からの短期留学生受入サポートを実施する。 ・海外研修旅行を検討し、学生の海外への興味を喚起する。 ・留学プログラム等の情報を収集し、海外で活動する学生を支援する。 ・技術振興会会員企業に教員の短期派遣(インターンシップ)実施に関する調査を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・海外研修旅行を検討し、学生の海外への興味を喚起する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が海外に積極的に飛び出すマインドを育成する取り組みとして、海外研修旅行(台湾)を企画し、令和4年度に本科3年生希望者を対象に実施を計画していたが、台湾の情勢や新型コロナウイルス感染症の影響で団体旅行は当分の間実施困難であることから教員による事前視察を含め、実施の中止を決定した。 	<p>新型コロナウイルスの影響により、実施の中止を決定した。</p>
<p>④ 外国人留学生の受入れを推進するため、以下の取組を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究者を英語で紹介する「Researcher List」を更新し、海外の研究者や学生との交流の際に配布を行うことで、高等専門学校教育の特性や魅力について、情報発信を強化する。 ・日タイ産業人材育成協カイニシアティブに関する情報収集に努めるとともに、1年次からの留学生の受入を実施するための準備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究者を英語で紹介する「Researcher List」を更新し、海外の研究者や学生との交流の際に配布を行うことで、高等専門学校教育の特性や魅力について、情報発信を強化する。 ・引き続き、日タイ産業人材育成協カイニシアティブに関する情報収集に努めるとともに、1年次からの留学生の受入を実施するための準備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校が加入しているJAFSA(国際教育交流協議会)やその他案内のあった各種セミナー(オンライン)へ参加し、留学プログラム等の情報収集を行った。【再掲】 以下日程・参加セミナー・参加人数 ・本校が加入しているJAFSA(国際教育交流協議会)やその他案内のあった各種セミナー(オンライン)へ参加し、留学プログラム等の情報収集を行った。 以下日程・参加セミナー・参加人数 5月2日「カナダ留学オンラインセミナー」1名 6月22日・23日 日加オンライン交流会 1名 7月6日 ニュージーランド留学オンラインセミナー 1名 8月29日 留学生交流実務担当教員養成プログラム 1名 9月9日 メタバースを活用した新しい形態のオンライン海外研修プログラムについて 1名 9月28日 西オーストラリア州パース留学セミナー 1名 	
<p>⑤ 外国人留学生の学業成績や資格外活動の状況等の的確な把握及び指導等を行う。学生を海外に派遣する際の危機管理体制の構築を進める。【再掲】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究者を英語で紹介する「Researcher List」を更新し、海外の研究者や学生との交流の際に配布を行うことで、高等専門学校教育の特性や魅力について、情報発信を強化する。 ・引き続き、日タイ産業人材育成協カイニシアティブに関する情報収集に努めるとともに、1年次からの留学生の受入を実施するための準備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「Researcher List」の更新をおこない、海外への高等専門学校教育の特性や魅力についての情報発信を強化した。 ・4月から1年次留学生3名を受け入れた。 ・7月にタイ王国大使館学生部が来校した際に情報収集及び意見交換を行った。 ・10月に非常勤職員1名を採用し、受入事業体制の充実を図った。 	
<p>⑤ 外国人留学生の学業成績や資格外活動の状況等の的確な把握及び指導等を行う。学生を海外に派遣する際の危機管理体制の構築を進める。【再掲】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生を海外に派遣する際の危機管理体制の構築を進める。【再掲】 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、学生を海外に派遣する際の危機管理体制構築のため、OSSMAと年間契約を行った。【再掲】 	

第4期中期計画 (富山高等専門学校)	令和4年度 年度計画 (富山高等専門学校)	年度計画進捗状況	課題
<p>2. 業務運営の効率化に関する事項</p> <p>2.1 一般管理費等の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般管理費3%、その他経費1%の効率化係数達成に向けた取り組みを進める。 業務委託内容の見直しを進め、全学での業務委託の実施を継続し、固定的経費縮減を進める。 定期的に経費執行状況の把握を行い、予算の早期執行と適正使用並びに光熱水料等の節減とその実行を教職員へ周知徹底する。 	<p>2. 業務運営の効率化に関する事項</p> <p>2.1 一般管理費等の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般管理費3%、その他の経費1%の効率化係数達成に向けた取り組みを進める。 業務委託内容の見直しを進め、全学での業務委託の実施を継続し、固定的経費縮減を進める。 定期的に経費執行状況の把握を行い、予算の早期執行と適正使用並びに光熱水料等の節減とその実行を教職員へ周知徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> 運営費交付金算定ルールに基づく効率化係数を踏まえ、節減を図りつつ、校長のリーダーシップの下、機動的・戦略的な学校運営を行うために必要な予算を確保した。 業務委託内容の見直しを進め、全学での業務委託の実施を継続し、固定的経費縮減に努めた。 把握している経費執行状況を10月27日に各課へ送り、予算の早期執行を進めるよう通知した。また、効率的な予算執行のため、事業終了等による不用額を確認し、引き上げを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 業務委託契約では、スケールメリットを生かし全学(2キャンパス)分の一括契約を行い、固定的経費の縮減に努めているが、最低賃金の上昇等により相手方の人件費が上昇しているため、固定的経費の縮減は困難になりつつある。
<p>2.2 給与水準の適正化</p>	<p>2.2 給与水準の適正化</p>		
<p>2.3 契約の適正化</p> <p>業務運営の効率性及び国民の信頼性の確保の観点から、随意契約の適正化を推進し、契約は原則として一般競争入札等によることとする。</p> <p>さらに、引き続き「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について(平成27年5月25日総務大臣決定)」に基づく取組を着実に実施することとし、「調達等合理化計画」の実施状況を含む入札及び契約の適正な実施については、各種監査によりチェックを受けるものとする。</p>	<p>2.2 契約の適正化</p> <p>業務運営の効率性及び国民の信頼性の確保の観点から、随意契約の適正化を推進し、契約は原則として一般競争入札等によることとする。</p> <p>さらに、引き続き「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について(平成27年5月25日総務大臣決定)」に基づく取組を着実に実施することとし、「調達等合理化計画」の実施状況を含む入札及び契約の適正な実施については、各種監査によりチェックを受けるものとする。</p>	<p>業務運営の効率性及び国民の信頼性の確保の観点から、随意契約の適正化を推進し、契約は原則として一般競争入札等により実施している。</p> <p>さらに、引き続き「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について(平成27年5月25日総務大臣決定)」に基づく取組を着実に実施することとし、「調達等合理化計画」の実施状況を含む入札及び契約の適正な実施については、令和5年1月24日に令和4年度高専相互監査(監査校 函館高専)のチェックを受けた。</p>	
<p>3. 予算(人件費の見積もりを含む。)、収支計画及び資金計画</p> <p>3.1 戦略的な予算執行・適切な予算管理</p> <ul style="list-style-type: none"> 財政委員会において、予算の透明性・公平性を確保し、戦略的かつ計画的な予算配分を行う。また、予算の執行状況を教職員に周知し適正な執行に務める。 校長裁量経費等を、学校の方針に基づき、費用対効果の高い事業に配分する。 科学研究費補助金の新規獲得のための講習会を開催するなど対策を実施する。 地方公共団体や民間企業との受託研究、共同研究などの取組を積極的に推進する。 学生の奨学援助や国際交流のための寄付金を募集し、基金創設を図る。 企業のニーズに応える企業技術者教育を、セミナープラン等の形式を用いて実施する。 	<p>3. 予算(人件費の見積もりを含む。)、収支計画及び資金計画</p> <p>3.1 戦略的な予算執行・適切な予算管理</p> <ul style="list-style-type: none"> 財政委員会において、予算の透明性・公平性を確保し、戦略的かつ計画的な予算配分を行う。また、予算の執行状況を教職員に周知し適正な執行に務める。 校長裁量経費等を、学校の方針に基づき、費用対効果の高い事業に配分する。 科学研究費補助金の採択件数の増加をはかるため、申請予定者に対する講習会、申請書の相互査読・助言に加え、昨年度申請し不採択者に対する個別フォローの方法を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 財政委員会において、予算の透明性・公平性を確保し、戦略的かつ計画的な予算配分を行った。また、予算の執行状況を把握の上、早期執行について10月27日・12月21日に通知した。 校長裁量経費等を、学校の方針に基づき、費用対効果の高い事業に早く取り組むため、第一次の採択を年度開始前に行った(予算配分は今年度)。7月27日に第二次を配分し、12月16日に第三次を配分した。 科学研究費補助金の採択件数の増加をはかるため、7月25日に科研費獲得のための講習会を開催し、教職員52名が参加した。 昨年度科研費に申請し、A評価・B評価で不採択となった17名の教職員に研究奨励賞を授与し、研究支援金を提供した。 	<ul style="list-style-type: none"> 科研費採択率は前年度とくらべてわずかに微増。さらなる積み増しのための工夫が課題 研究奨励賞授与者の35%が科研費採択となったことから、この種の奨励賞は継続的に続けていく。
<p>3.2 外部資金、寄附金その他自己収入の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会連携活動の推進等を通じ、共同研究、受託研究等を促進し、外部資金の獲得の増加を図る。また、卒業生が就職した企業等との交流を図り、寄附金の獲得につながる取組を試行的に行う。 後援会・同窓会・技術振興会などからの支援を有効利用し、教育体制整備を進める。 	<p>3.2 外部資金、寄附金その他自己収入の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> KRAや他の大学・機関等と連携し、外部資金の情報収集及び共有を行う。その結果を踏まえて、種々の助成金等の申請支援を行う。 社会連携活動の推進等を通じ、共同研究、受託研究等を促進し、外部資金の獲得の増加を図る。 後援会・同窓会・技術振興会などからの支援を有効利用し、教育体制整備を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> KRAと連携して外部資金獲得に関する情報の共有を進めた。 社会連携活動の推進等を通じ、共同研究、受託研究等を促進し、外部資金の獲得の増加を図るために、助成を実施した。 <p>助成期間: 令和3年10月1日～令和4年9月30日(技術振興会の年度で実施)</p> <p>共同研究 76件のうち51件に助成 受託研究 12件</p>	

第4期中期計画 (富山高等専門学校)	令和4年度 年度計画 (富山高等専門学校)	年度計画進捗状況	課題
<p>8. その他主務省令で定める業務運営に関する事項</p> <p>8. 1 施設及び設備に関する計画</p> <p>①ー1 「国立高等専門学校機構施設整備5か年計画」(令和3年3月決定予定)及び「国立高等専門学校機構インフラ長寿命化計画(個別施設計画)2018」(平成31年3月決定)に基づき、新しい時代にふさわしい国立高等専門学校施設の機能の高度化や老朽施設の改善などの整備を推進し、施設マネジメントに取り組む。</p>	<p>8. その他主務省令で定める業務運営に関する事項</p> <p>8. 1 施設及び設備に関する計画</p> <p>・「国立高等専門学校機構施設整備5か年計画」及び「国立高等専門学校機構インフラ長寿命化計画(個別施設計画)2018」に基づく、戦略的イノベーションによる将来計画により、改修等の施設整備を計画的に実施し、維持管理費等のコスト削減及び省エネの推進を図る。</p> <p>・練習船若潮丸の代替新造船(商船系高専四番船)の建造を検討するとともに、5商船系高専が引き続き連携をして、商船系高専二番船である弓削丸及び三番船である鳥羽丸の概算要求を支援する。</p> <p>・施設の非構造部材の耐震化については、引き続き、計画的に対策を図る。</p>	<p>(本郷キャンパス)</p> <p>・階段教室の照明器具の一部LED照明器具を令和5年7月8日に更新し、省エネの推進を図った。</p> <p>・教室棟3の教室(307室、308室)内照明のLED化を令和5年3月10日に完了し、省エネの推進を図った。</p> <p>・また、令和4年度の概算要求事業の地域連携推進棟改修を令和5年3月10日に完了し、照明器具をLED照明器具に更新し、省エネの推進を図った。</p> <p>(射水キャンパス)</p> <p>・令和4年度の概算要求事業の第3寮棟内部改修及び実験実習棟一部内部改修において、照明器具をLED照明器具に更新し、省エネの推進を図った。</p> <p>・弓削丸高専の弓削丸は、建造入札手続を完了し、納入期限に向けて設計打合せを行っているところである。富山高専も引き続き連携をして、代替新造船の概算要求を支援する。</p> <p>・施設の非構造部材の耐震化については、対応案件が見つかり次第、引き続き、計画的に対策を図った。</p>	
<p>② 学生及び教職員を対象に、「実験実習安全必携」を配付するとともに、安全衛生管理のための各種講習会を実施する。</p>	<p>・学生及び教職員を対象に、「実験実習安全必携」を配付するとともに、安全衛生管理のための各種講習会を実施する。</p>	<p>・10月4日に実習の概要と心得をスライドで説明した。</p> <p>・機械工作作業における一般的注意を実施した。</p> <p>・6月2日に服装などの安全教育、危険予知訓練、作業の注意事項の講習を実施した。</p>	
<p>③ 理工系女性人材の育成に伴う女子学生の受け入れに対応するため、環境改善としてトイレの洋式化や女子寮の整備を推進する。</p>	<p>・理工系女性人材の育成に伴う女子学生の受け入れに対応するための環境改善として、トイレの洋式化や女子寮の整備を推進する。</p>	<p>令和4年度に校長裁量経費により、次のとおりトイレ改修を行い理工系女性人材の育成に伴う女子学生の受け入れに対応するための環境改善として、女子寮の整備を行った。</p> <p>(本郷キャンパス)女子トイレの洋式化は昨年度(令和3年度)に完了している。</p> <p>(射水キャンパス)今年度実施する第3寮棟改修工事において、女子男子日本人学生と女子男子留学生との混住タイプとして整備し、国際交流の活性化と学生支援・生活支援の機能の強化を図った。</p>	
<p>8. 2 人事に関する計画</p> <p>(1)方針</p> <p>・教職員ともに積極的に人事交流を進め多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を図るため、以下の取組等を実施する。</p> <p>① 課外活動、寮務等の見直しとして、外部人材やアウトソーシング等の活用、また少ない顧問数で運営に当たれるよう全学で部活動の見直しを検討する。</p>	<p>8. 2 人事に関する計画</p> <p>(1)方針</p> <p>・教職員ともに積極的に人事交流を進め多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を図るため、以下の取組等を実施する。</p> <p>・課外活動、寮務等の見直しとして、外部人材やアウトソーシング等の活用、また少ない顧問数で運営に当たれるよう全学で部活動の見直しを検討する。</p>	<p>・課外活動指導員6名、学生寮指導員8名、看護師1名を採用して、教員の負担軽減を図った。学生指導者資格を有する者、退職した教員や看護師といった専門的な知識・経験を有する人材を採用し、課外活動の引率業務、休日の指導・管理業務、学生寮の当直業務、寮生の看護業務等を委任することにより、教員の大きな負担となっている業務の軽減に繋がった。</p>	
<p>② 教員の戦略的な配置を検討する。また、国立高等専門学校幹部人事育成のための計画的な人事交流制度への人員派遣を検討する。</p>	<p>・教員の戦略的な配置を検討する。また、国立高等専門学校幹部人事育成のための計画的な人事交流制度への人員派遣を検討する。</p>	<p>・多様な人材育成を図るため、学科間の人事交流について検討を行った。</p> <p>・国立高等専門学校幹部人事育成のための人事交流制度については、機構本部からの通知により人員派遣について検討を行った。</p>	
<p>③ 各学科の若手教員確保のため、戦略的に教員人員の配置を図る。</p>	<p>・各学科の若手教員確保のため、戦略的に教員人員の配置を図る。</p>	<p>・令和11年までの教員採用計画を策定し、その中では教員人員枠の特定流用制度(教授3⇒助教5)を用いて若手教員を確保するように計画した。</p> <p>・多様な人材育成を図るため、学科間の人事交流について検討を行った。</p>	
<p>④</p> <p>・専門科目担当教員の公募において、応募資格の一つとして、博士の学位を有する者を掲げることを原則とする。【再掲】</p> <p>・企業や大学に在職する人材など多様な教員を配置するため、クロスアポイントメント制度の活用を検討する。【再掲】</p> <p>・ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム(育児等のライフイベントにある教員が他の国立高等専門学校で勤務できる制度)等の取組を実施する。【再掲】</p> <p>・専門学科での女性教員確保に努める。</p> <p>・教員公募の際には、外国人教員の採用を積極的に検討する。【再掲】</p> <p>・シンポジウム、研修会、ニューズレターの配付等を通じて、男女共同参画やダイバーシティに関する意識啓発を図る。</p>	<p>・専門科目担当教員の公募において、応募資格の一つとして、博士の学位を有する者を掲げることを原則とする。</p> <p>・企業や大学に在職する人材など多様な教員を配置するため、クロスアポイントメント制度の活用を検討する。</p> <p>・ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取組を実施する。</p> <p>・専門学科での女性教員確保に努める。</p> <p>・教員公募の際には、外国人教員の採用を積極的に検討する。</p> <p>・シンポジウム、研修会、ニューズレターの配付等を通じて、男女共同参画やダイバーシティに関する意識啓発を図る。</p>	<p>・原則的に学位を重視するが、今年度の教員選考(昇任含む)においては、民間企業での実績、船員における航海歴、技能免状など様々な角度からなる評価により、優れた教育・研究力を有する人材の確保に努めた。(再掲)</p> <p>・企業等とのクロスアポイントメント制度の活用について、教員からの相談に対応し、検討を行った。</p>	
<p>⑤ 教職員の積極的な人事交流を進め、多様な人材育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を推進する。</p>	<p>・教職員の積極的な人事交流を進め、多様な人材育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を推進する。</p>	<p>・教員1名(女性1名)が介護短時間労働制度を利用して勤務した。</p> <p>・職員3名(女性3名)が育児短時間労働制度を利用して勤務した。</p> <p>・職員1名(女性1名)が育児休業を取得した。</p> <p>・妊娠、育児及び介護をはじめ、新型コロナウイルス感染拡大防止に関する教職員の就業上の措置として、在宅勤務、時差出勤及び職務専念義務免除等、柔軟な働き方を選択できるよう配慮した。</p> <p>・教員募集要項に女性からの応募を歓迎する旨を明記するなど、女性からの応募を増加させる取り組みを行った。(再掲)</p> <p>・教員募集要項に外国籍を有する方の応募を歓迎する旨を明記するなど、外国人からの応募を増加させる取り組みを行った。(再掲)</p> <p>・関連の掲示物・配布物は遅滞なく、教職員に公開・配布している。</p>	
<p>⑤ 教職員の積極的な人事交流を進め、多様な人材育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を推進する。</p>	<p>・教職員の積極的な人事交流を進め、多様な人材育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を推進する。</p>	<p>・近隣大学との人事交流及び高専機構本部への配置換により、多様な人材育成を図っている。</p> <p>・職務遂行上必要な知識を与え、高専教職員に求められる役割・立場を明確にすることを目的に新任教職員研修会を4月1日及び4月27日に開催し、25名の教職員が参加した。</p>	
<p>(2)人員に関する指標</p> <p>・常勤職員について、その職務能力を向上させつつ事務のIT化等により業務の効率化を図り、適切な人員配置に取り組む。</p>	<p>(2)人員に関する指標</p> <p>・常勤職員について、その職務能力を向上させつつ事務のIT化等により業務の効率化を図り、適切な人員配置に取り組む。</p>	<p>・各階層別の研修に職員13名を参加させることにより職務能力を向上させるとともに、示された定員枠内において、適切な人員配置を行った。</p>	

第4期中期計画 (富山高等専門学校)	令和4年度 年度計画 (富山高等専門学校)	年度計画進捗状況	課題
<p>8.3 情報セキュリティについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教職員を対象とした情報セキュリティの意識向上を図るための情報セキュリティ教育(e-learning)の受講及び標的型攻撃メール対応訓練等の円滑な対応を行う。国立高等専門学校の情報担当者を対象とした情報セキュリティに関する研修、管理職を対象とした情報セキュリティトップセミナーの受講を周知徹底するなど、職責等に応じて必要な情報セキュリティ教育を計画的に実施する。 ・国立高等専門学校機構CSIRTの指示のもと、本校のインシデント通報及びインシデント対応について情報共有を行うとともに、初期対応徹底のために「すぐやる3箇条」を継続して行い、情報セキュリティインシデントの予防および被害拡大を防ぐための啓発を実施する。 ・情報セキュリティ研修会の実施、計画的に機器の更新を行うなど、業務運営のために必要な情報セキュリティ対策を引き続き適切に推進する。 	<p>8.3 情報セキュリティについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教職員を対象とした情報セキュリティの意識向上を図るための情報セキュリティ教育(e-learning)の受講及び標的型攻撃メール対応訓練等の円滑な対応を行う。国立高等専門学校の情報担当者を対象とした情報セキュリティに関する研修、管理職を対象とした情報セキュリティトップセミナーの受講を周知徹底するなど、職責等に応じて必要な情報セキュリティ教育を計画的に実施する。 ・国立高等専門学校機構CSIRTの指示のもと、本校のインシデント通報及びインシデント対応について情報共有を行うとともに、初期対応徹底のために「すぐやる3箇条」を継続して行い、情報セキュリティインシデントの予防および被害拡大を防ぐための啓発を実施する。 ・情報セキュリティ研修会の実施、計画的に機器の更新を行うなど、業務運営のために必要な情報セキュリティ対策を引き続き適切に推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員を対象とした情報セキュリティの意識向上を図るため、情報セキュリティ誓約書の提出、教職員向け情報セキュリティ教育(6/20-7/29)の受講及び標的型メール対応訓練のための円滑な対応を行った。 ・情報セキュリティトップセミナー(7/7, 12/20)の案内及び取りまとめを行った。 ・IT人材育成研修会(10/5-6, 10/13-14)に2名が参加した。 ・標的型攻撃メール対応訓練の実施に併せて初期対応徹底のために「すぐやる3箇条」の啓発を行った。 ・アプリ版に加えて、Web版Outlookのメール誤送信防止システム導入を行い、セキュリティインシデントの防止対策を実施した。 ・12月7日に情報セキュリティ研修会を実施し、144名が参加した。 	
<p>8.4 内部統制の充実・強化</p> <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長のリーダーシップのもと、本校としての迅速かつ責任ある意思決定を実現するため、必要に応じ機動的に、WEBシステム((desknet's電子会議室、Skype等)を活用した会議、打合せを行う。 ・定期会合や運営審議会、その他の主要な会議や各種研修等を通じ、本校の課題や方針の共有化を図る。 ・本校の運営及び教育活動等について教職員の意見を確認するため、各担当主事、学科長等から必要に応じて意見等を聞く。 	<p>8.4 内部統制の充実・強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長のリーダーシップのもと、本校としての迅速かつ責任ある意思決定を実現するため、必要に応じ機動的に、WEBシステム(Teams、Skype等)を活用した会議、打合せを行う。 ・定期会合や運営審議会、その他の主要な会議や各種研修等を通じ、本校の課題や方針の共有化を図る。 ・本校の運営及び教育活動等について教職員の意見を確認するため、各担当主事、学科長等から必要に応じて意見等を聞く。 	<p>校長のリーダーシップのもと、本校としての迅速かつ責任ある意思決定を実現するため、WEBシステム(desknet's電子会議室・skype・Teams)を活用した会議、打合せを行った。</p> <p>校長・副校長・事務部長及び関係職員による会議を毎週開催して本校の課題や方針を検討し、毎月1回開催する教育活動懇談会および全教員会議において共有化を図った。</p> <p>毎月1回の教育活動懇談会において、各担当主事および学科長と意見交換を行った。</p>	
<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人全体の共通課題に対する機構本部からの情報通知を校内で周知するとともに、リスクマネジメントを徹底するため、事案に応じ、機構本部と十分な連携を図り対応する。 ・機構本部が作成した、コンプライアンス・マニュアル及びコンプライアンスに関するセルフチェックリストを活用して、階層別研修等により教職員のコンプライアンスの向上を行う。 ・事案に応じ、機構本部と十分な連携を図り、速やかな情報の伝達・対策などを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・法人全体の共通課題に対する機構本部からの情報通知を校内で周知するとともに、リスクマネジメントを徹底するため、事案に応じ、機構本部と十分な連携を図り対応する。 ・機構本部が作成した、コンプライアンス・マニュアル及びコンプライアンスに関するセルフチェックリストを活用して、階層別研修等により教職員のコンプライアンスの向上を行う。 ・事案に応じ、機構本部と十分な連携を図り、速やかな情報の伝達・対策などを行う。 	<p>機構本部からの注意喚起等について随時教職員への周知を行った。</p> <p>高専機構が作成した「コンプライアンス・マニュアル」を校内グループウェアに掲載し、教職員への周知を行った。</p> <p>発生した学生指導事案については、機構本部に逐一報告を行うとともに、対策を行った。</p>	
<p>③ これらを有効に機能させるために、内部監査及び各国立高等専門学校の相互監査を実施し、時宜を踏まえた監査項目の見直しを行い、発見した課題については情報を共有し、速やかに対応を行う。</p>	<p>これらを有効に機能させるために、内部監査及び各国立高等専門学校の相互監査を実施し、時宜を踏まえた監査項目の見直しを行い、発見した課題については情報を共有し、速やかに対応を行う。</p>	<p>公文書管理において、適切に作成、廃棄等が行われているかチェックリストの活用による点検を8/8に実施し、課題の発見及び改善を行った。</p>	
<p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度に策定した「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策」の確実な実施のため、適宜研修会を開催し研究費の適切な取扱いに関する注意喚起等を行う。 ・校内監査を牽制体制を十分確保しながら実施する。また、各種監査の指摘・改善等は、適切に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・科研費の執行説明会などにおいて、不正使用防止のための注意喚起を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4月27日に新任教職員研修を開催し、研究活動の現状と不正行為の防止について説明し、教職員23名が参加した。 ・7月1日に科研費執行説明会を開催し、教職員52名が参加した。 	
<p>⑤ 機構本部の中期計画及び年度計画を踏まえ、年度計画を定める。また、その際には、本校の特性に応じた具体的な成果指標を設定する。</p>	<p>機構本部の中期計画及び年度計画を踏まえ、年度計画を定める。また、その際には、本校の特性に応じた具体的な成果指標を設定する。</p>	<p>機構本部の中期計画及び年度計画を踏まえた年度計画を定めた。また、その際には、本校の2キャンパスを有する特性に応じた具体的な成果指標を設定した。</p>	